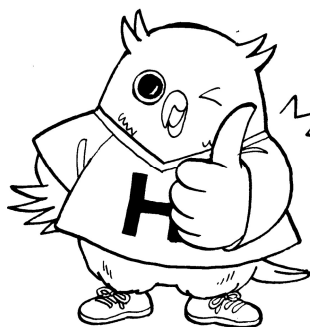


# L'aile d'Howl



卒業の季節ですね！それぞれ進学する皆さん、新しい場所でもハンドボール是非続けてくださいね！

【ライル・ドウル:ホウルの翼(仏語)】

2008年3月号



1

## 大沼杯にて岩手県勢大活躍！おめでとう！

2月といえば大沼杯！今年も元気な東北の小学生ハンドボールが山形県東根市に集結し、普段の練習の成果を競いあいました。



「東北ブロック小学生ハンドボール大会」としては2回目、これまでの大沼杯としては17回を数える本大会。回数を重ねる毎に参加チーム数が増え、14分ハーフで試合を進めた初日。健闘むなしくわれらが花巻クラブジュニアは予選リーグで敗退してしまいましたが、岩手県勢が頑張ってくれました！今回本気で優勝を狙ってきたリトルハンドさんは、大会前は週3回も練習した努力が実り、男子は見事優勝！女子も準優勝という素晴らしい成績に輝きました！また、女子では矢巾フェニックスさんが第3位！小学生の皆さんの頑張りで、これからの岩手ハンドボールが、ますます盛り上がること間違いなしです！

また、本大会では岩手からも審判が登場。中でも、岩手が全国に先駆けて取り組んでいるヤングフェリープログラムの卒業生である西郷優さんが父上の晃先生とペアで参加！オフィシャルをしていた地元高校生も「おおっ！」と注目していました。将来有望な小学生とともに審判の世界でも期待を集めていました！

(右)元気な花巻クラブジュニアのメンバーです！来年は上位入賞めざして頑張るぞ！



2

## プレーオフ観戦記！大同特殊鋼が3連覇飾る

毎年恒例になっております日本リーグプレーオフ。世界最終予選の日程の関係もあり、女子が2月に大阪でプレーオフを終えたため、今回は男子準決勝、決勝のみが東京・駒沢の地で行われました。今回も応援バスツアーは企画できませんでしたが、ホウルくんは単独会場に乗り込みました。

準決勝第一試合は湧永製薬対トヨタ車体。爆発を期待していた車体の大砲20番門山選手が不調で得意の豪快なロングシュートが出ません。対する湧永製薬は堅いディフェンスで車体に得点のチャンスを与えません。

シュートを打たれても守護神坪根選手の見事なセービングにかかり、試合は湧永が優位のまま進んでいきました。ハウルクンが個人的に嬉しかったことは、昨年夏に花巻で講習会を開いてくれた6番山中選手がスタメンに定着し、大きな体で豪快なシュートをたくさん決めていたことです。今後の活躍も期待したいと思います。



準決勝第二試合は我々が大崎電気対大同特殊鋼。宮崎効果も手伝って、プレーオフ中で最も観客を集めた試合となりました。サポーターも応援合戦が白熱！新しい応援グッズを使って会場にアピールする大同応援団。対する大崎電気は女性の黄色い声援が多かったような…。試合は前半から大同が主導権を握るものの2番豊田選手のカットインや19番猪妻選手の速攻などで大崎も必死に食らいつきます。その後も必死の追い上げを見せ、1番GK浦和選手のナイスセーブ、5番中川選手のロングシュートで後半23分、ついに同点に追いつきます。その後はお互い一步も譲らない戦いを繰り広げ、なんと延長に入りました。延長でも一進一退の攻防が続きますが、大同4番末松選手、20番白選手の活躍で、大同が38対36で勝利を収めました。延長戦で敗れた大崎の選手たちは涙、涙…本当に惜しい試合でしたが、久々に延長までもつれる素晴らしいゲームで会場を大いに盛り上げてくれました！



翌日の決勝戦！湧永は中山監督が退任、3番下川選手が引退を表明しており、なんとしてでも勝利で有終の美を飾りたい！

試合は昨日に引き続き混戦となりました。両チームの激しいディフェンスのために中盤以降警告、退場者が多数出る荒れ気味の試合になりました。前半はまさに一進一退の攻防で全く点差が離れることなく、湧永が1点リードで折り返しました。

後半は湧永がスカイプレーや3番下川選手の3連続得点などで突き離しにかかりますが、なんとここまで大活躍だったその下川選手がレッドカードで退場となり(ショック!)、後半27分に大同が同点に追いつき昨日の準決勝に続き延長戦へと突入しました。

延長戦は大同が28対27で前半を終了しました。延長後半に入り、大同に流れが傾きますが、その後大同9番武田選手にレッドカードが与えられ、再び湧永が食らいつきます。30対29で大同が1点リードする中、なんと残り2秒、湧永キャプテン17番古家選手の渾身のステップシュートが決まり、同点で第2延長へともつれ込みました！第2延長も前半は大同ペースで折り返すものの、後半は湧永18番渡辺選手が逆転ゴールを決め、湧永優勢かと思われたラスト、大同18番岸川選手が粘りのゴールを決め、なんと34対34の同点で、プレーオフ史上初の7Mスローコンテストへ！

7Mスローは、大同GK1番荻田選手、湧永12番坪根選手がゴールに立ちただかる勝負となりました。7Mに強いと定評がある荻田選手は湧永2人目のキャプテン古家選手のシュートを渾身のセーブ！結果として39対37で、大同特殊鋼が3年連続12回目の優勝を飾りました。



なんというゲームだったでしょう。今回のプレーオフでは、改めてハンドボールの面白さを認識した気がします。優勝後の末松選手の一言「もっともっとうまくなりたいいけない」---謙虚さ、そして常に上を目指す姿勢が本当に素晴らしいかったです。これからの日本ハンドボール界をリードしていく選手たちに期待するとともに、大興奮のゲームを展開してくれた選手たちに感謝したいと思います！

L'aile d'Howl (ライル・ドウル)  
2008年3月号  
2008年3月25日 発行

発行: 花巻市ハンドボール協会